

〈 小学校 特別活動部会 〉

研究主題 特別活動の特質を生かした個に応じた指導

研究の概要

平成10年に改正された学習指導要領が目指す生きる力の育成を推進するために、特別活動の目標を再確認し、学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事それぞれの特質を生かした指導の在り方を追究した。

とりわけ、学級活動については、日々の指導が特別活動の特質にどのように反映しているのかを、授業研究を通して明らかにした。

また、他の活動についても、それぞれの指導が「生きる力の育成」に果たす役割を、事例研究を通して明らかにした。

I 研究の目的

学校の教育課程は、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間によって編成される。これらの教育活動の特質を生かした学習を着実に積み重ねることが、児童の「生きる力」の育成につながる。「生きる力」を育てるためには、特別活動の指導の充実が不可欠であることは言うまでもない。しかし、各教科の授業時数の確保に終始し、意図的、計画的、継続的な特別活動の指導の充実が図れていない状況も散見される。

特別活動の課題としては、「目標や内容を踏まえた指導に必要な授業時数等の確保」が挙げられている。「生きる力」の育成のために教育課程全体のバランスを図り、年間を通して特別活動の指導に必要な授業時数を確保することが大切である。

また、個に応じた教育は、決して一人一人の児童に対する個別指導を意味するものではなく、児童が集い、学び合い、高め合う中で、一人一人の確かな自己実現を図ることである。つまり、「望ましい集団活動を通じた教育活動」にこそ、学校教育の意義があると言える。

特別活動は、「集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方、生き方についての自覚を深める」ことが特質である。学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事それぞれの教育活動の特質を一人一人の教師が十分に認識し、適切な指導が推進されることが大切である。

本研究は、特別活動の各活動の特質を生かした指導の在り方を再確認し、ややもすると特質を見失いがちな特別活動の指導を充実させる提案をすることが目的である。

II 研究の方法

1 学級活動(1)以外の各内容における特別活動の特質を生かした指導の在り方

各委員の所属校における児童会活動、クラブ活動、学校行事の実践を収集し、事例研究を通して特別活動の特質に応じた指導の在り方を明らかにした。

2 学級活動(1)における特別活動の特質を生かした指導の在り方

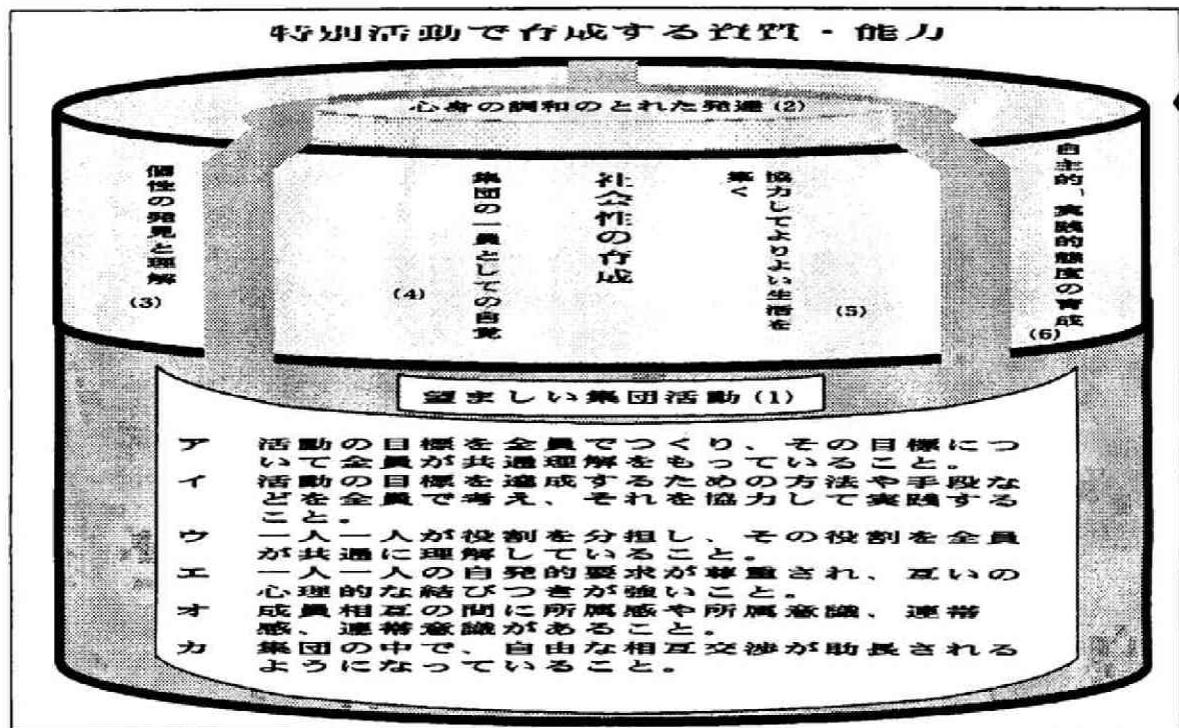
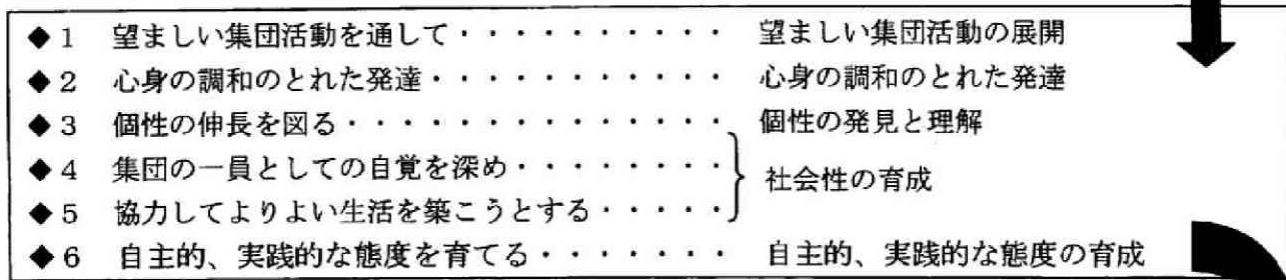
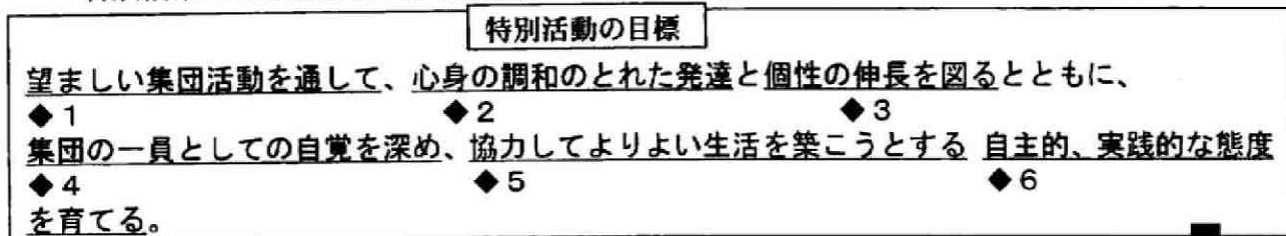
学級活動(1)については、以下のような手順で授業研究を行った。

- (1) 話し合い活動に至るまでの、教師の指導と児童の活動を整理し、児童への指導、活動環境の整備などと特別活動の特質とのかかわりを分析する。
- (2) 特別活動の特質を視点として、話し合い活動において児童に育てたい力を明確に設定し、授業を行う。
- (3) 授業記録を基に、実際の指導が特別活動の特質に適ったものか否かを、分析、考察し授業改善を図る。

III 研究の内容

1 学習指導要領の基準性を生かした特別活動の指導とは

特別活動の目標を分析し、特別活動で育成する資質・能力を以下のように構造化した。



構造図について

*1 心身の調和のとれた発達は、望ましい集団活動を通すとともに、個性の発見・社会性の育成・自主的、実践的な態度の育成の過程の中で、培われるものである。

*2 望ましい集団活動 (1) は、他の資質・能力の育成のための基盤となるものである。
なお、内容と区別するために、(1)～(6)を(ア)～(カ)とした。

***指導事例における記号について** : IV章の指導事例の記号は、上記の考え方を基に以下のように示している。

「目標に示された特別活動のどの資質・能力に対応した活動・指導であるか」を示している。		望ましい集団活動の条件 (1)～(6)のうちいずれに対応した活動・指導であるかを示している。			
児童の活動	内容	条件	教師の指導	内容	条件
1, はじめの言葉	4	オ	前時までの振り返りカード	4	アエオ

2 特別活動の各内容の目標と分析

学習指導要領の基準性を生かし、特別活動の指導を展開するために、各内容の目標を特別活動の目標を視点に分析した。

(1) 学級活動

児童が自分たちの学級や学校の生活の充実と向上を目指して、学級内の組織づくりや仕事の分担
条件 **活動内容(1)**
 処理、解決方法について話し合う活動など、学級生活に関する諸問題の解決を自主的に行うとともに、生活や学習への適応や安全な生活など心身の健康を増進し、健全な生活態度を身に付ける活動
活動内容(2)
 を通して、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする **自主的、実践的**
 ◆4 ◆5 ◆6
 な態度を育てる。

- ・ 活動内容(1) 学級や学校の生活の充実と向上に関すること(話し合い、係、学級集会)
- ・ 活動内容(2) 日常の生活や学習への適応及び健康や安全に関すること

(2) 児童会活動

児童が自分たちの学校生活を向上させようとする意図の下に、学校生活に関する諸問題を解決す
条件 **活動内容**
 る活動及び学校内の自分たちの仕事を分担処理する活動を自発的、自治的に行うことによって、
自主性と社会性を養い、個性の伸長を図る。
 ◆6 ◆4, 5 ◆3

代表委員会 各種委員会 児童集会

(3) クラブ活動

同校の児童が、所属する集団の生活を楽しく豊かなものにしようとする意図の下に、共通の興味・
条件 **活動内容**
 関心を追求する活動を自発的、自治的に行うことによって、自主性と社会性を養い、個性の伸長を
 ◆6 ◆4, 5 ◆3
 図る。

(4) 学校行事

全校又は学年という大きな集団の中で、児童の積極的な参加による体験的な活動を行うことによ
条件 **活動内容** ◆6
 って、学校生活に秩序と変化を与え、全校及び学年集団への所属感を深め、日常の学習成果の総合
 ◆4
 的な発展を図って、学校生活の充実と発展に資するようになるとともに、集団行動における望まし
 ◆4
 い態度や協力してよりよい生活を築こうとする態度を育てる。
 ◆5

- 儀式的行事・・・入学式、卒業式、始業式、終業式、修了式、開校記念に関する儀式等
- 学芸的行事・・・学芸会、学習発表会、作品展示会、音楽会、読書感想発表会等
- 健康安全・体育的行事…健康診断や給食に関する意識を高めるなどの健康に関する行事等
- 遠足・集団宿泊的行事…遠足、修学旅行、野外活動、集団宿泊等
- 勤労生産・奉仕的行事…飼育栽培活動、校内美化活動、地域社会の清掃活動 等

IV 指導事例

以下、特別活動の特質を生かした望ましい集団活動のモデルとなる指導事例を示す。

1-A 学級活動(1)

(1) 事前の指導

児童の活動	教師の指導	内容	条件
	学級活動のオリエンテーション ★1	6	ア・イ
「みんなでやりたいこと」について議題を出し合う。	議題についてのオリエンテーション	5・6	アイエ
計画委員会(司会グループ)を組織する。 ★2 ・議題、提案理由を決める。 ・役割分担を決める。(司会、副司会、黒板・ノート記録) ・話し合いの柱を決めて確認する。進め方を考える。	決めた事項を確認し、疑問点を問いかける。	5 6 4	ア イ エ ウ
学級全体に、議題、提案理由、話し合いの柱を確認する。 学級の実情に応じた活動を行う。 (学級会カードづくりなど)	計画委員会の学級全体への、呼びかけ、確認を促す。	5 6	ア イ エ

(2) 本時の指導

児童の活動	内容	条件	教師の指導	内容	条件
1 始めの言葉 ★3	4	オ	・前回までの話し合い活動の状況を振り返らせることができるようにしておく。	4	ア
2 議題の確認 ★4	5	ア		エ	
3 提案理由の確認 ★4	6	アイ		オ	
4 話し合いの柱の確認 ★5		アイ			
5 司会グループの役割紹介 ★6		ウエ			
6 話し合い ★7 ・提案理由をもとに意見を出し合う。 ・一人一人の意見を生かし、全員が納得して進め、決定できるように意見を出し合う。 ・司会グループは自分の役割を知り、協力して自分の役割を果たす。 ・自分の経験や持ち味を生かして、意見や進捗を助ける発言をする。 ・互いの意見を尊重し合う。 ・自分の思いだけでなく、話し合いをまとめることを考えて意見を言う。 ・自分の考えを十分に表現するとともに、友達の発言を大切にす。 ・必要に応じて、タイマーなどを活用して話し合いを進める。	3～6	ア イ ウ ウ エ オ カ イ イ	・話し合いの記録をとり、児童の活動の様子を見守る。 ★8 ・終末の助言で取り上げたい発言などを記録する。 ★8 ・児童のつぶやきやとらえておきたい行動なども記録する。 ★8 ・児童の自治的な活動の範囲外のことや、生活指導上必要なことについては適宜助言する。 ★9	3～6	ア～カ
7 決まったことの確認 ★10	4	アイ	・司会グループをねぎらい、活動の記録を基に、望ましい集団活動につながる項目、話し合いを進めるための意見や提案理由を生かした意見を賞賛する。 ・実践活動への意欲を高める。	3～6	ア～カ
8 振り返りをする。(振り返りカードなど)	3	エ			
9 教師の話を聞く。 ★11	3～6				
10 終わりの言葉 ★3	3～6				

(3) 事後の指導

・「学級会カード」に活動の振り返りを記入する。 ・司会グループの反省会を行う。	3 6	エ オ	・「学級会カード」を回収しコメントを書く。	3 6	ア カ
--	--------	--------	-----------------------	--------	--------

＜ 活動や手だての意義と指導の実際 ＞ ◎目的・意義 ○指導の内容や様子など

- ★1 学級活動のオリエンテーション
 - ◎ 学級活動のねらいを明確にし、望ましい集団活動を通して児童の自治的な活動を促す。
 - 活動内容(1)(2)の違い、「話し合い活動」の意義と内容、課題、自治的活動の範囲などを指導する。
- ★2 計画委員会
 - ◎ 共通の目的をもって自分たちの力で話し合い、会を進められるようにする。
 - 計画委員会の内容を全員に知らせ、確認をとり、共通理解を図る。
- ★3 「始めの言葉」「終わりの言葉」
 - ◎ 自治的活動の時間であることの意識を高めるため。回数を重ねていくことで、自分たちの活動の積み重ねを意識させ、所属感や連帯感を高める。
- ★4 「議題の確認」「提案理由の確認」
 - ◎ 本時の目標について、全員で共通理解し、それに向かって話し合いを進められるようにする。
- ★5 「話し合いの柱の確認」
 - ◎ 見通しをもって、話し合いを進められるようにする。
- ★6 司会グループの紹介とめあての発表
 - ◎ 役割を全員で共通理解する。司会グループは、責任をもって役割を果たそうとする意欲を高める。
- ★7 「話し合い」
 - ◎ 望ましい集団活動を展開し、社会性を育成する。
 - 活動中に直接的に指導することではなく、今までの活動の積み重ねの中で終末の助言などでふれてきたことや、日常の教科での指導の中で心がけてきたことがこの場面に現れてくることを期待する。
 - ① 「提案理由をもとに意見を出し合う」
 - 司会グループの確認などをしておく。終末の助言で提案理由を大切にしたい児童を認めていくようにする。
 - ② 「一人一人の意見を生かし、全員が納得して進め、決定できるように意見を出し合う。」
 - 事前に意見を書いた学級会カードや、教室内に掲示した今まで話し合いの記録を参考にさせる。
 - ③ 「司会グループが自分の役割を知り、自分の役割を果たす」
 - 計画委員会で役割を明確にする。今までの活動のよさを教室内に掲示するなどして参考にさせる。終末の助言で司会グループをねぎらう。振り返りの自己評価の観点を設けさせる。
 - ④ 「自分の経験や持ち味を生かして、意見や進行を助ける発言をする」
 - 振り返りカードの記述などで、友達のよさを伝え、自分のよさを認識することで、自信をもたせる。終末の助言では、具体的な例を挙げて成長を賞賛していくようにする。
 - ⑤ 「互いの意見を尊重し合う」
 - 振り返りカードの各観点として提示し、毎時間、自己評価できるようにする。終末の助言で具体的な場面を考えさせる。各教科等の授業の中で、教師がどんな意見でも大切にしていこうようにする。
 - ⑥ 「自分の思いだけではなく、話し合いをまとめることを考えて意見を言う」
 - 学級全体の成長を終末の助言などで伝えていく。振り返りの時間を確保する。
 - ⑦ 「自分の思いを十分に表現し、友達の発言を大切にする」
 - 学級生活全体で、自由に意見が出し合えるような雰囲気作りをする。賞賛し合う場面を増やす。
- ★8 「活動中の記録」
 - 児童の具体的な言動を記録しておき、終末の助言で、児童を賞賛したり課題を指摘したりする際や望ましい集団活動につながる言動などを抜き出し、今後の指導に活用する。また、積み重ねてきた記録を読み返すことで、学級の変容や個人の変容をとらえる。
- ★9 「話し合い中の助言」
 - ◎ 児童の自治的な活動を尊重し、児童が全員参加の姿勢で、助け合いや学び合いの場面を作り上げる。
- ★10 「決まったことの確認」
 - ◎ 決定事項を全員で確認し、共通のものとするため。みんなで考え、自分たちの力で決めたという意識を高める。
- ★11 「教師の話」
 - ◎ 終末の助言をし、活動のよさや個人のよさを伝える。また、司会グループをねぎらうことで、役割を果たしたことへの達成感をもたせる。
 - 何を認めていくかの観点を事前に明確にしておく。具体的な例を挙げてほめることを心がける。日常の学校生活とも関連させて、さまざまな児童をほめていけるように記録をしていく。

1-B 係の活動の事例

児童の活動	内容	条件	教師の指導	内容	条件
			・オリエンテーションをする。 (係とは何か、係と当番の違い) ★1	3~6	ア~カ
・作りたい係や仕事内容を出し合う。 ★2	5	カ	・話し合いを見守る。(自治的範囲を超えるときは助言する。また、所属決定の際、学級経営上の必要があれば助言する。) ★4	56	イカ
・出されたものを検討・整理する。 ★3	5	イ			
・係を決定し、人数調整をし、所属を決定する。	56	イ			
・係ごとに活動計画を立てる。 ★5 (係名の工夫、めあて、活動内容、役割分担、具体的な活動予定等)	6	アイ	・活動時間を設定する。 ★5	6	イ
・自分たちで活動する。	6	ウ	・児童が自由に使えるコーナーを設ける。 ★5	6	エ
・連絡やお願いをする。 ★6	5	カ	・必要な道具類を用意する。 ★5	6	イ
・活動を振り返る。 ★8	3~6	ア~カ	・活動の様子を見守り、賞賛する。 ★7	3~6	ア~カ
			・具体的な言動を取り上げて賞賛する。	3~6	ア~カ

< 活動や手だての意義と指導の実際 >

- ★1 「自分たちの力で学級生活を豊かにしていく」ため、十分創意工夫できるものを係の活動とすることを確認する。
- ★2 学級内の仕事を児童自身が見いだしていく目を養うため。
- ★3 学級生活を豊かにするための視点を考えさせるため。当番に組み入れた方がよいものは整理するようにする。
- ★4 自分の思いや個性を大切に、所属を決定するように助言する。
- ★5 見通しをもたせ、自主的に活動できるようにするため。
- ★6 互いの活動の連携、個性やがん張りを認め合うため、朝の会や帰りの会、掲示コーナー等を活用する。
- ★7 意欲や創意工夫、協力、努力、責任、学級への貢献などの観点から賞賛し、有用感、所属感を高める。
- ★8 役割分担の大切さや自分の役割について気付かせるため。振り返りカードやメッセージカード等を活用する。

2. 学級活動(2)の事例

題材例：「雨の日の過ごし方」について考えよう(日常生活や学習への適応及び健康や安全に関すること)

	児童の活動	内容	条件	教師の指導	内容	条件
つかむ	1 問題の把握 ★2 「雨の日の過ごし方」の現状を出し合う。	5		・問題を意識化するために、実態を明確化する。児童からの情報も生かす。	5	ア
	2 共通問題の設定 ★1 「雨の日の過ごし方」について考えよう。	4 5		・日常生活への好ましい適応を考える場を作る。	4 5	ア
深める	3 原因の追求 ★3 ・外で遊べなくてつまらないから。 ・体を動かしたくなるから。	4 5	オカ	・実態の原因を相互に交流しながら、問題点を発見できるようにする。	4 5	オカ
	4 解決方法を考える ★4 「室内で楽しく過ごす」にはどうしたらよいか考えよう。 ・折り紙、お絵かき、粘土をする ・読書をする ・お話をする。	3~6	ア エ オ カ	・児童による自主的な話し合いを通して、問題を解決できるように配慮する。 ・解決への意欲づけの援助をする。	3 5 6	ア エ オ カ
まとめる	5 実践に向けて話し合う。 自分はどう過ごすかを決めて発表する。 ・静かな遊びをしたい。ゲーム大会をやりたい。 ※	3 5 6	ア イ カ	・実践に向けての働きかけをする。 学級としての取組として実践への意欲化を図る。 ★5	3 5 6	ア イ カ

< 活動や手だての意義と指導の実際 > ◎目的・意義 ○指導の内容や様子など

- ★1 問題の把握
 - ◎ 共通の切実な問題として受け止め、意識化できるように、問題の状況や実態を知る。
 - 児童の問題意識を高める工夫として、児童の報告や発表なども含めた活動を取り入れる。
- ★2 共通問題の設定
 - ◎ 学級の児童に共通した問題であり、教師の意図的・計画的な指導により解決される。
- ★3 原因の追求
 - ◎ 原因を一人一人の児童に自分の問題としてとらえ、より切実感をもたせ、解決の方向を探る。
- ★4 解決方法を考える
 - ◎ 共通の問題について具体的に何をしたらいいか、集団思考を通して自己決定する。
 - 児童の思いや願いを受け止めた上で、どうしたらいいかを全員で考えようとする態度を育てていく。できるだけ児童による自主的な話し合いや実践活動を取り入れて問題解決するように配慮する。
- ★5 実践に向けての働きかけ
 - ◎ 具体化して、実践活動できるようにする。
 - カードへの記入や掲示などを行い、実践活動に結びつける。
 - 学級活動(2)の共通の問題から、学級活動(1)の共同して取り組む議題として発展することも考えられる。 ※

3. 児童会活動の事例（代表委員会活動）

過程	代表委員会の児童	内容	条件	代表委員会担当教師の指導	内容	条件
年組織作りと年間の見通し	・代表委員会のことを知る。★1	46	7イ	*代表委員会のオリエンテーションを行う。(1年間の活動時間数、自治的範囲)★1.5 *代表委員会の組織編成をする。★1(学校や学年の実態を考慮)★5 *活動時間・場所、集会の回数等の確保★1	4 6	7・イ
	・自己紹介をし、互いの思いを知り合う。★1 ・司会グループ(輪番制)を組織し、役割分担を行う。★1	4~6 4~6	7イ 7イ		5 6	ウ イ
議題収集・議題決定	・全校のみんなでやりたいことのアングートをとる。★2 ★5	6	7イ	*他校の情報を提示する。★2 *各学級のノートを用意する。★5 *ファイルを用意し、活動記録を残す。★5 *計画委員の時間を確保する。★1 *アンケートをとる場や時間を設ける。★5 *全校のこと考えて話し合うよう促す。★2 *自信をもって話し合えるよう見守る。★4 *児童の話合いの記録をとる。★3.4	6 6 6 6	イ イ イ イ
	・全校アンケートの集計をし、全校の児童の思いを把握する。★2 ★5	6	7イ		6	イ
	・アンケート結果を全校に伝える。★2 ★5	4	7イ		6	7イ
	・議題案を出した人へお礼を出す。★2 ★5	4	イ		6	ア
	・年間の行事や集会、全校アンケートをもとに年間計画を話し合う。★2 ★5	6	7イ	・自信をもって話し合えるよう見守る。★4 ・児童の話合いの記録をとる。★3.4	4 6 6	エ カ
それぞれの集会の準備・実践・振り返り	・計画委員会を行う。	6	カ	*場合によって「実行委員」を呼びかける。 *自信をもって活動できるよう見守る。 *集会実施に向けての日時・場所の調整や呼びかけをする。★5 *児童の話合いの記録をとる。 *児童の動きについて記録をとる。★5 *節々で話合いや役割分担等の進み具合を確認する。(全校朝会後の活用等)★4 *準備時間を確保する。★4 *集会の記録(写真やメモなど)をとる。★4 *集会後に振り返りの場をもつ。★4	6 6 6 6	イ イ イ イ
	・話合いカードを作成する。	6	カ		6	イ
	・企画段階で全校児童(1年生から6年生)のことを意識して考える。	6	カ		6	イ
	・議題について話し合う。	6	カ		6	イ
	・めあて(提案理由)をもとに話し合う。	6	7イ		6	エ
	・決まったことや協力してほしいことを全校児童に連絡をする。(朝や給食時間・朝会時等)	456	7イ		6	エ
集会の準備	・特に低学年にはわかりやすく説明をするように心がける。	456	7イ	*節々で話合いや役割分担等の進み具合を確認する。(全校朝会後の活用等)★4 *準備時間を確保する。★4	5 6	ウ
	・全校児童に分かりやすく連絡を掲示する。	456	7イ		6	イ
	・役割分担及び役割分担の準備をする。	456	ウ		6	イ
実践・振り返り	・役割分担の仕事をし、会を運営する。	456	ウ	*集会の記録(写真やメモなど)をとる。★4	6	オ
	・集会後に「今日の集会はどうか」と全校児童に問いかける。	4	7イ	*集会後に振り返りの場をもつ。★4	5 6	カ
	・集会後、全校児童に配る感想用紙を作る。	4	7イ		5 6	カ
振り返り	・毎時間の活動の振り返りを行う。★3	3~6	7イ	*記録をもとに振り返りの場をもつ。★3.4 *「自己評価カード」を記入させ担当からの一言を書き添え担任経由で児童に渡す。★4	3~6	アイ
	・1年間の振り返りを行う。(「自己評価票」の記入)★5	3~6	7イ		3~6	7イ

< 活動や手だての意義と指導の実際 > ◎目的・意義 ○指導の内容や様子など

- ★1 組織作りと年間の見通し
- ◎ 代表委員会活動のねらいを明確にし、望ましい集団活動を通して自治的な児童の活動が展開できるようにする。
 - オリエンテーションを行い、全校児童がよりよい学校生活になるための話合いや実践活動、自治的範囲を明確にする。年間の活動時間や行事などを示し、見通しをもたせる。異学年の相互の理解が助長できるようにする。
- ★2 議題収集から議題選定まで
- ◎ 全校児童の思いや願いが実現できるようにする。
 - 全校児童の思いや願いを知り、代表委員会で取り扱うこと、各委員会に任せること、教師に依頼すること(自治的範囲外の要求や悩み等)に整理し、全校児童の期待を考え、代表委員会の議題を決める。
- ★3 振り返りの場の設定
- ◎ 活動のよさや個人のよさを広げ、課題を見つけ、次の活動に生かすようにする。
 - 教師は話合いや実践の記録をとり、振り返りの場を設ける。活動後に助言する。集会の実践後は、会の終わりに全校児童に問いかけたり、取組についての感想を書かせたりする。代表委員会の児童は、全校児童の反応を受けて振り返る。
- ★4 代表委員会以外の教師とのかかわり
- ◎ 代表委員会の活動がより全校児童の活動になるようにする。
 - 表中の*は、代表委員会の活動を担当以外の教師も共に共通理解し指導する。教師間の連絡を密にし、決まったことや進行状況等も伝えていくことが全校のよい活動につながる。(そのことは内容：56 条件：アイにあたる)
- ★5 代表委員会以外の児童とのかかわり
- ◎ どの学年も進んで児童会活動に参加することを自覚させる。
 - 学級の呼びかけを通して、活動に目を向けたり、進んで参加したりできるようにする。特に、代表委員会に児童が参加していない学年においては、十分に取り組みの内容や意図が伝わるように配慮する。(そのことは内容：56 条件：アイウオにあたる)

4. クラブ活動の事例（一単位時間の活動）

段階	児童の活動	内容	条件	教師の指導	内容	条件
準備	1 当番・係または全員で、必要な物を準備する。 ★1	6	イウ	・必要な物を準備しておく。 ・場合によっては、学校予算を使って購入しておく。	6	イ
始まり	2 あいさつをする。★2	4	オ			
出席確認	3 担当児童による出席確認をする。★3	4	ウ			
予定確認	4 クラブ長などの指示により行う。全員が、本日の活動内容を理解したところで、本日の活動に入る。 ★2	3 4 6	ア イ	・全員が本日の活動を理解しているかを見守り、必要に応じて助言する。	6	エ
本日の活動	5 本日の活動を展開する。★4 ・ 本日の活動の意義を考えながら取り組む。 ・ 異学年の交流を工夫して活動を展開する。 ・ 活動に必要な役割を考え、分担する。 ・ 成員の希望を取り入れて活動を展開する。 ・ 互いに十分に活動を楽しむ。	3~6	ア イ ウ エ オ カ	・ 技術的な指導に走らない。	3 5	エ
片付け	6 当番・係・または全員で協力して行う。★1	4	ウオ			
反省・終末の助言	7 本日の活動を振り返って、よかったことや次回がんばりたいことを発表し合う。★5	3 4 5	ア ウ エ カ	・ 適切な終末の助言を行う。 〈具体的な場面の承認〉 ・ 自分たちでできたこと ・ 役割を果たしたこと ・ 集団に寄与する言動など 〈次への意欲や見通しをもたせる助言〉	6 4 5	イ ウ オ
次回の予告	8 次回の活動を知り、次回に用意しなければいけない物を考え、確認する。★6	5 6	ア イ			
終わり	9 あいさつをする。★2	4	オ			

〈 活動や手立ての意義と指導の実際 〉 ◎目的・意義 ○指導の内容など

★1 「準備」・「片付け」

- ◎ 成員で役割を分担しその役割を果たすことで、役割意識が高まると共に所属感や連帯感を高める。
- 仕事内容の分担とその当番が分かるような表を活動場所に掲示しておく。

★2 「あいさつ」「予定確認」

- ◎ 共通の興味や関心を追求する者が集まって活動をしようとするを常に意識することから、所属意識が高まる。また、全員が活動を理解することにより、自主的な活動が展開される。
- 成員が、どんな希望をもってクラブに参加しているかを把握しておくとともに、チーム分けや練習方法・対戦方法など、事前にクラブ長を中心に計画させておき、担当が確認しておく。

★3 「出席確認」

- ◎ 成員の参加を確認すると共に、様々な役割分担を作ることで、だれもが役割を担える場を作る。
- 「学年毎に出席確認者を定める」などの工夫をうながす。

★4 「本日の活動」

- ◎ 一人一人が自分の欲求を満たすとともに、成員相互の十分な交流があることが必要である。また、共有した活動の目標に向かってそれぞれが活動に取り組むことが、所属感や連帯感を高めることになる。そのためにも、異学年の中で、動きのコツやルールなどを教え合ったり、活動を楽しんだりできることが重要である。
- 活動の様子をよく観察し、終末の助言で生かしていく。

★5 「反省」

- ◎ 本日の活動が、自分たちのつくった目標と照らし合わせ、どうであったかを振り返り、次回の活動に生かそうとする態度を養う。
- 発表する順番を決めておくなどしておき、発言者や発言学年が偏らないようにする。

★6 「次回の予告」

- ◎ 成員の興味・関心を高め、次回へ意欲を喚起する。
- 「みんながやりたいこと」を考えさせるとともに、「だれかがやりたいこと」も大切に活動を考えられるように促す。

5 学校行事の事例

行事名：「セーフティ教室」（健康安全・体育的行事）

	児童の活動	内容	条件	指導上の留意事項	内容	条件
入場	○ 児童は全校朝会の隊形で椅子を持って集合、整列 など			・副校長は、体育館の安全担当教師と連絡し体育館への入場を放送で促す。 ・参観者は体育館側面・後方で待機。		
セーフティ教室	○ 開会					
	1 「セーフティ教室」のめあてを聞く。★1 ・安全に気をつけて生活することは、豊かで楽しい毎日につながる。 ・身の回りには、自分たちを見守ってくれる大人の大人がいること。	24	アイ	※安全担当教師は、全学年が理解できるように工夫して話す。	24	アイ
	2 校長の講話を聞く。★2 ・ゲストティーチャーの紹介 ・地元警察署の警察官	24	アイ	・ゲストティーチャーには、名札を用意して着用してもらう。	24	
	3 ゲストティーチャーの指導を受ける。★3 ・体験の発表 ・事件の紹介 ・被害にあわないための心得 ・ロールプレイ	2～6	エ	・ゲストティーチャーの指導について事前に安全担当教師は打合せを行う。 ・児童の実態に合わせて取り上げる活動を工夫する。	2～6	イ～カ
	4 ゲストティーチャーに質問をする。★4	2～6	リ	・学年のバランスを考えて質問を受ける。	2～6	リ
	5 児童からのお礼の言葉（6年生児童）					
	6 副校長による謝辞 ★5	24	アイ			
	7 安全担当教師による講評 ★6					
8 閉会						
退場	○ 児童は順次退場する。			・安全担当教師が退場を促す。		

〈 活動や手だての意義と指導の実際 〉 ◎目的・意義 ○指導の内容や様子など

- ★1 担当者の話（行事のめあてを理解させる。）
◎ 本時においてどのようなことを学ぶのかを確認する。（各学級では事前に行事の意義を指導しておく。）
- ★2 校長の話を聞く。
◎ 全校児童で行う行事を通して、一人一人の児童に身に付けさせたいこと、考えさせたいこと、教師の願いなどを理解させる。
- ★3 ゲストティーチャーによる指導
○ 本時の内容は、全校児童にかかわることであり、協力して課題に取り組みようとする意欲を高めるために、身近な児童の体験を生かすようにする。
○ 取り組むべき課題への具体的な対策を専門的な立場のゲストティーチャーから学び、児童相互が安全について配慮できるようにする。
- ★4 ゲストティーチャーへの質問
◎ 課題に対する疑問点を全校児童で出し合い、聞き合うことで協力してよりよい生活を築こうとする実践的な態度を育てる。
- ★5 副校長による謝辞
◎ 児童の心身の成長を支える人々への謝意を、全校児童の前で表明することで、自主的・実践的な態度を高めるようにする。
- ★6 担当教師の話
◎ 本時のめあてに基づいて振り返らせるとともに、実践への意欲を高めるようにする。

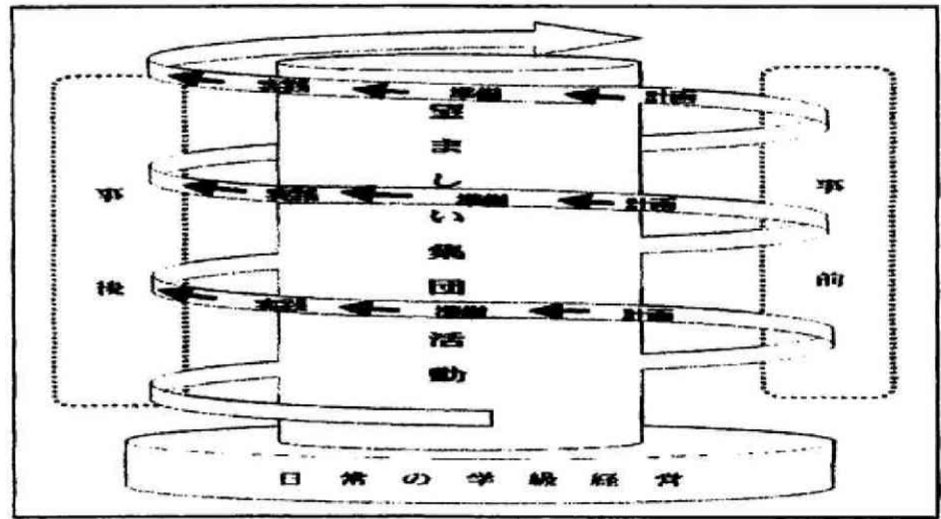
学校行事の指導は、学年又は学校を単位として行われるもので、行事の特質、計画から実施、評価までの一連の流れを、全教職員が共通理解し、同様な姿勢で行うことが重要である。

V 特別活動の充実を目指して

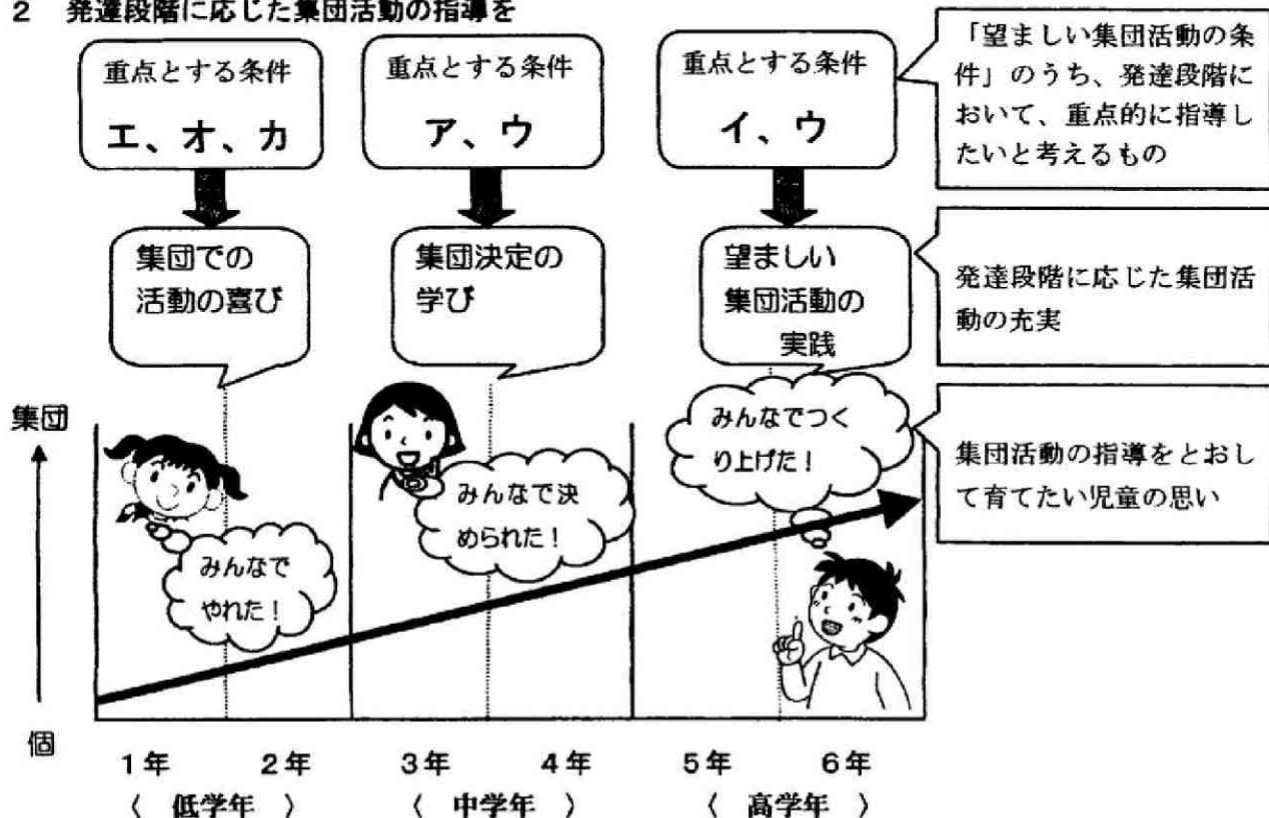
1 特別活動の特質を生かした意図的・計画的な指導を

特別活動の指導に際しては、教師は、常に特別活動の特質である「望ましい集団活動」を意識して指導することが必要である。

学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事において、指導しようとする事項が常に特別活動の特質に合致したものか否か、「望ましい集団活動の条件」を視点に見極める必要がある。



2 発達段階に応じた集団活動の指導を



3 校長のリーダーシップによる明確な教育課程への位置付けを

特別活動の標準授業時数は、学級活動の35単位時間だけであるが、他の活動については、各学校で適切に定めることになっている。どの活動も学習指導要領の基準性を生かした学校教育を進める上で重要であり、校長のリーダーシップの下、全教職員の共通理解を図り、各学校の教育課程に適切に位置付けることが必要である。